

加賀宝生と 中野家

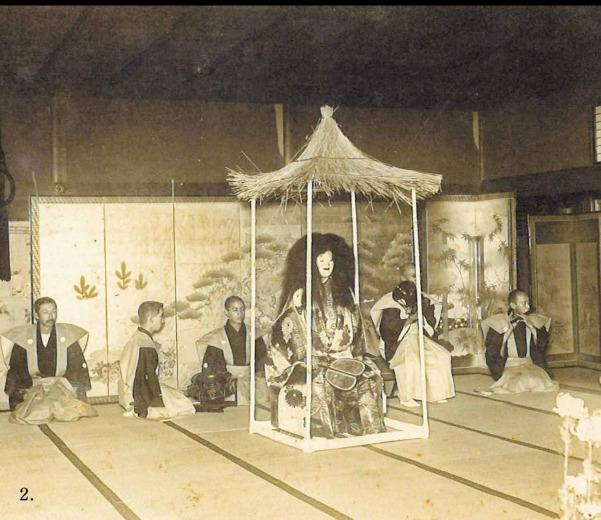
加賀藩前田家の
能を受け継いだ
中野家の紳士能



2022年
9月17日[土]~
11月13日[日]

前期 9月17日[土]~10月10日[月祝]

後期 10月15日[土]~11月13日[日]



1. 浪沢栄一の盟友として活躍した政治家で実業家の中野武管(1848~1918 前列右から3人目)とその一族。武管と長男・岩太(1871~1957 前列右端)は旧加賀藩前田家の御手役者に師事し、13代藩主前田斉泰とその七男・利昌ゆかりの根岸能舞台に深く関わった。
2. 能《枕草子》 シテ 中野老水(岩太) 大正7年11月23日 命尾寿六米寿祝賀会 於東京芝公園紅葉館
3. 能装束 白地唐松入雲文様給袴衣 江戸時代19世紀 加賀藩前田家旧蔵 国(文化庁保管)

開館時間/午前10時~午後6時(入館は午後5時30分まで)

休館日/毎週月曜日(休日の場合はその次の平日)、展示替え休館 10月12日(水)~14日(金)

料金/一般・大学生 310円、65歳以上 210円、高校生以下 無料、団体(20名様以上) 260円

主催/金沢能楽美術館[(公財)金沢芸術創造財団]

後援/北國新聞社・NHK金沢放送局・MRO北陸放送・テレビ金沢・金沢ケーブル・エフエム石川・ラジオかなざわ・ラジオこまつ・ラジオななお

Kanazawa Noh Museum 〒920-0962 金沢市広坂1-2-25

金沢能楽美術館 TEL(076)220-2790 FAX(076)220-2791
<https://www.kanazawa-noh-museum.gr.jp>

金沢駅兼六園口(東口)バスターミナルより乗車、「広坂・21世紀美術館」または「香林坊(アトリオ前)」下車。

石川県立能楽堂開館50周年記念
金沢能楽美術館2022年度特別展

加賀宝生と 中野家

加賀藩前田家の
能を受け継いだ
中野家の紳士能



小鼓 花菱絵附 附草花菱絵八角箱
江戸時代

本展は近代日本の黎明期に渋沢栄一の女房役として活躍し、当時の加賀宝生にも深く関わった政治家で実業家中野武管(1848～1918)とその長男・岩太(茗水・1871～1957)を紹介する初の展覧会です。

旧高松藩士の出身である中野武管は、多忙な仕事の傍ら謡を趣味とし、縁あって旧加賀藩御手役者である松林鶴叟(1807～1889)や、旧幕時代の謡を継承する命尾寿六(1831～1919)らの薫陶を受けました。岩太も松林と命尾に入門し、舞の型は「宝生流の副将」と称された重鎮・松本金太郎(1843～1914)に師事しました。この金太郎も元来加賀藩御手役者(大鼓方葛野流)中田家の生まれで、金沢出身の文豪・泉鏡花の伯父でもあります。

明治期より興隆する紳士能(※華族や政財界の名士らによる素人の能)の代表格となった中野家。彼等は旧加賀藩13代藩主前田斉泰(1811～1884)ゆかりの根岸能舞台(明治8年・1875建設)にて、その七男で旧大聖寺藩主の前田利豊(1841～1920)が主催した演能の会「温故会」を支え、精力的に舞台を務めました。後に能舞台が染井の旧高松藩主松平頼寿へ譲渡・移築される際には、中野家とその間を取り持ち、奔走しています。

能楽全般に精通した岩太は、大正元年(1912)、16代宝生宗家九郎知栄(1837～1917)らとともに東京音楽学校能楽囃子科の嘱託に指名されて囃子方の養成に当たり、昭和2年(1927)には茗水会を設立して能楽の指導と普及に尽力しました。昭和7年(1932)の金澤能楽堂建設時においても有識者として助言を求められています。

このたび初公開となる中野家の能楽資料には、旧幕時代の謡を伝える岩太の貴重な音源をはじめ、近代を代表する能面師・中村直彦が中野家の依頼で制作した極小精緻な能面標本[97面一式]、茗水会の門人であった政治家・平沼騏一郎の書、能画家・松野奏風が描いた中野家の能絵、さらには白蓮事件直後に中野家に身を寄せた歌人・柳原白蓮が歌を揮毫した鼓の革など、同家を取りまく多彩な文化環境が反映されています。

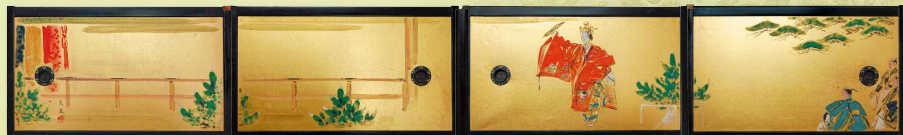
初の里帰り品を含む加賀藩・大聖寺藩前田家ゆかりの華麗な能装束(国／文化庁保管)や、斉泰・利豊旧蔵の貴重な能面(尾山神社・江沼神社)とともに、歴史の転換点にあった能楽文化の諸相をご鑑賞ください。



前田斉泰ゆかりの能舞台にて「敦盛」を舞う中野家



近代能楽界で活躍した中野家の人々 左:中野管三(小鼓方幸流) 右:中野後三郎(笛方・増流)



袋戸欄襖絵(羽衣)上演の図 松野奏風筆 近代

関連事業 企画展 加賀宝生のすべて ―能面と能装束―
9月17日(土)～10月23日(日) 石川県立美術館

要予約 しゃうたい 写謡の会

静かな時の中、美しい能の謡を書き写し、心身を浄化させてみませんか。
当日午後には催される定例会(於石川県立能楽堂)について、能楽師による解説の後、謡本の流麗な文字をなぞります。

| 日程 | 曲目 | 講師(宝生流シテ方) |
|----------|--------|------------|
| 10月2日(日) | 六浦・絃上 | 佐野 玄宣 |
| 11月6日(日) | 錦木・大会 | 藪 克徳 |
| 12月4日(日) | 和布列・天鼓 | 渡邊 茂人 |

【時 間】10:15～(約1時間)

【持ち物】筆ペン(または筆・墨・すずり)

【参加料】1回500円＋観覧料

【申込み】各回ごとに電話にて申し受けます

※会場・日時は変更になる場合があります。 ※各種体験につきましてはHPをご確認ください。



大聖寺藩前田家旧蔵の
華麗な能装束

萌葱地秋草と柴垣・黒地霞に蒲公英文様段替縫箱
18世紀 国(文化庁保管)



能面標本(97面一式)
中村直彦作
昭和13～17年

タテ3・5cm×ヨコ3cm!
極小サイズの能面にみる妙技



中野若水写真声レコード
宝生流謡曲「遊行柳」
昭和15年



柳原白蓮
(1885～1967)



白蓮揮毫大鼓革
近代

旧幕時代の謡を伝える
貴重な音源を初公開!

Kanazawa Noh Museum 金沢能楽美術館

〒920-0962 金沢市広坂1-2-25

TEL(076)220-2790 FAX(076)220-2791

<https://www.kanazawa-noh-museum.gr.jp>

金沢能楽美術館 検索 <https://www.facebook.com/kanazawa.noh.museum>

金沢駅兼六園口(東口)バスターミナルより乗車、「広坂・21世紀美術館」または「香林坊(アトリオ前)」下車。

